

新役員の顔ぶれ決まる —理事長に加納 啓良先生—

7月1日に理事会を開催し、現理事の再任と、新たに2名の理事と役付理事の選任を行いました。新しい理事として、加納啓良(かのうひろよし)さんと武田高(たけだたかし)さんが推薦され(P4を参照)、協議の上、全員異議なく了承し、両氏からも就任の承諾が得られました。引き続き役付理事について、加納啓良さんを新理事長、奥山寿子さんを事務局長とすることが全員一致で了承されました。新年度は理事9名、監事1名の体制で運営にあたります。

ご挨拶 加納 啓良

このたび「アジアの新しい風」の理事長を仰せつかりましたので、ひとことご挨拶申し上げます。実はつい最近まで「アジア風」にはご縁がなかったのですが、協力のご依頼を頂いてホームページや定款を拝読し、その活動趣旨にはすぐ理解と共鳴ができました。アジア諸国での日本語教育への協力と短期研修留学生への支援を、多文化共生と草の根交流の理念にもとづき実施する、というのが眼目だと読み取りました。

私自身はインドネシアを中心に東南アジアの歴史と社会経済を研究するのを仕事にしてきました。日本語教育は素人ですが、若いころに派遣先のインドネシアでボランティアの日本語教師をしたこともあります。現地の大学の日本研究センターに駐在して、大学院生たちを日本に留学生として送る仕事に携わった経験もあります。全部で300を越す種族が共存し、「多様性のなかの統一」を国是とするインドネシアは多文化共生の見本です。大学教師の本業のかたわら20年以上NGOの活動にも携わってきたので、草の根交流にも私は多少の経験があります。「アジア風」へのお手伝いにも役立つだろうと思いました。

本紙37号(2012年秋)の林望・前理事長のご挨拶によると、初代理事長の林雄二郎先生は戦時中インドネシアのバンドンに技術将校として赴任されていたそうです。そのバンドンのパジャジャラン大学と「アジア風」との交流が始まろうとしているのは、とても意義深いことです。バンドンは私も思い出が多いので、これからの展開が楽しみです。

*加納新理事長略歴 1970年 東京大学経済学部卒業
1980年 東京大学東洋文化研究所助教授
2012年 東京大学名誉教授

春のIメイト交流会

— いよいよインドネシアの大学と交流開始 —

4月17日(日)青山荘にて、54名(内留学生10名)の参加者を得て、春のIメイト交流会が開かれました。今回のテーマは「インドネシアとの交流開始に備えて」。第四番目の国としてインドネシアに焦点を当て、ここ数年来Iメイト交流校を模索してきましたが、このたびようやく、国立「パジャジャラン大学」との交流開始が決まり、会員のみなさんへご報告をいたしました。

一部は前インドネシア全権特命大使・鹿取克章氏によるご講演「インドネシアで感じたこと」がなされました。鹿取氏は2011年

から3年半、インドネシアに駐在されましたが、かの国は文化の多様性に富み、対日感情が大変よいそうで、「日本語学習者の学生たちとアジア風が、異文化交流を持つことを大いに歓迎する」とのこと。日本との関係は近年、直接投資が増加の一途をたどり、在留邦人の急増にもみられるように、経済関係が強化されて来たとのことですが、お話の中で特に印象に残ったのは、「若者の日本語学習者が急増(2013年のデータでは、87万人で中国に次ぐ人数)しているけれども、先生と教材不足が悩みである」とのことです。ここにアジア風が貢献できることがある、とあらためて確認できました。

そのあとに続いたパネルディスカッションでは、加納啓良氏(東大名誉教授・7月よりアジア風の理事長就任)と齋藤利治さん(Iメイト会員でジャカルタに長く駐在。P3「会員紹介」を参照)が加わり、上高子理事が司会をして「パジャジャラン大学と交流開始に当たって」というテーマで一時間ほど質疑応答がありました。国民の9割が敬虔なイスラム教徒である故、異文化交流をしていく上で留意することなど、いくつかの示唆に富んだお話を伺うことができました。

アルコールの話は表向きご法度ですけど、こぼれ話はいっぱいあります。(加納)

イスラムの女性に対して、男性が先に握手を求めてはいけません!(鹿取)

インドネシアに戻りたい元駐在員です。(齋藤)



また、パジャジャラン大学は、日本語教育の草分けとして有名な大学で、首都ジャカルタから車で5時間ほどのところにある、学術都市として知られるバンドンにあります。昨年11月に訪問をした上理事が、パワーポイントで大学の様子を説明いたしました。研修の時間が終わり、くつろいだ雰囲気の中、会員同士と留学生がおいしい料理を囲んで一時間ほど、懇親会が行われました。ペアーで参加したIメイト会員6組が紹介されました。

二部は留学生の就活セミナー。交流会解散後、青山荘内で場所を変えて、7人の留学生とそのIメイトたちが観覧する中行われました。担当理事の中村一郎さんが、アジア風の就職支援活動について、「Iメイト学生が一人でも多く日系企業の本社採用試験に挑戦し、それまでの学習が生かされるよう、応援しています」と挨拶。続いて、〈模擬面接を受ける留学生たち〉で、エントリーシートの書き方指導や模擬面接なども行われ、留学生たちは本番さながらの就活を体験しました。

参加留学生の貿易大・チュオン・ティ・ティエンさんは、事務局へ次のようなコメントを寄せています。「本格的な模擬面接を見ることができ、いい経験だったと思います。またいいアドバイスを述べてくださって心から感謝しております」。

アジア風の活動が少しずつ広がってきたことを実感できた交流会でした。



今年には清華大学に外国語学部（当時は外国語学院）が創設され90周年。大学でも種々イベントが企画され、学内の組織改革で従来の「日本語学科」が「東アジア言語と文化研究学科」と名称が変わった直後の訪問となりました。5月19日～22日のことです。

今年も日本の詩歌暗誦コンテストと表彰式を兼ねての交流会。



〈詩歌コンテスト1位の楊 雅捷さんと奥山事務局長〉

第2外国語で日本語を履修しているクラスの授業に参加して、Iメイト学生以外の学生との交流や、隣接する北京大学キャンパスツアー、近くに点在する円明園、頤和園観光も日程に組み込む等、バラエティに富んだ訪問旅行となりました。

「第2回日本の口語自由詩の暗誦と感想の発表コンテスト」ファイナルには10人の学生が出席。詩の暗唱と共に、その詩についての解釈や感想を発表し、最後に会員の川口祐子さんの質問に答えて発表を終えました。奥山事務局長を審査委員長とする厳正な審査の結果、1位は「母に捧げる歌」（サトウハチロー）を暗誦した楊 雅捷さん、2位は同じく「母に捧げる歌」を暗唱した劉 詩璇さん、3位は「こころ」（谷川俊太郎）を暗誦した梁 秋蟬さんが受賞となりました。表彰式兼交流会では、含本一雄さんが自作自演の創作落語（演題：国際交流）を披露されました。王 成先生を始め学生達も落語を知っていて、会場が一気に和んだのを皮切りに、学生がAKB48



の「あさが来た」を歌った時には鈴木一美さんが飛び入り参加したり、王先生が「母さんの歌」を歌われた際には島村美智さんと川口さんも参加して合唱する等、とても盛り上がりました。

この他にもまだまだ話題は尽きませんが、最後にご寄付をいただいた皆様、そして現地で準備に奔走いただいた宮崎いずみ先生や学生に改めて感謝を申し上げて報告と致します。

（理事 中村 一郎）

千年希望の丘植樹祭 2016 — 千年先のきみへ —

5月28日29日、留学生7名と会員12名が参加しました。植樹で気持ちいい汗を流し、荒浜地区の語り部さんから復興の話を伺い、いちご狩りと盛りだくさんの有意義な2日間でした。この活動に対して会員の皆様から18万円のご寄附を頂きました。ご協力ありがとうございました。以下は正会員、安川一さんからお寄せいただいた感想です。

（理事 古海 正子）



〈雑木林の防潮堤へ、願いを込めて植えました〉

昨年を引き続き、今年も晴天のもと、宮城県岩沼市で植樹祭が開催された。大勢のアジ風メンバーがバスで宮城県までやってきてくれた。宮城県からは東北大学留学中のハノイ貿易大学のマイさんと私が参加した。貿易大学から神

田外語大学へ留学中のトゥーさん（私のIメイト）とマイさんと私は、3月に塩釜で寿司と地酒を楽しんで以来の再会。

翌日の地元新聞によれば、4回目の今回は、過去最高の12000人が参加して10万本の木を植えたとのこと。終了後、仙台市内のホテルにチェックイン、目の前の居酒屋で懇親会。そして翌日のいちご狩りと大変楽しい2日間でした。お出でいただいた皆さま、そして幹事さん、ありがとうございました。（正会員 安川 一）

6月18日（土）、神戸市内のJICA関西で西日本地区Iメイト交流会を開催しました。前日までの雨模様とは打って変わっての好天気で、六甲山の緑が美しく映えるなか、留学生12人と会員15名が参加して、充実した1日をすごしました。

交流会は午前10時半すぎにスタート。東京の事務局で作成したアジ風の垂れ幕と横断幕を、前の黒板と側面の壁に飾り、午前中は「留学生とのIメイト交流の進め方—邪魔にならず疎遠にならない方法は—」と題してのパネルディスカッション。武田高さんの司会で、同じ西日本地区在住の会員、今井進さん、含本一雄さんと、元Iメイトで学生会員の崔 振宇さん（阪大博士課程）がパネラーとして発言。含本さんは「人生経験、日本語能力、時間的余裕の3点でお互い、大きな違いがある。まず会員が学生の気持ちに寄り添って対応することが大事」と述べ、この春、ベトナムからの留学生3人を関西空港で出迎え、寮に送り、買い物を手伝うなど、初来日の学生の不安解消に取り組んだ経験を披露。今井さんは、来日間もない学生に切符の買い方など、日本人が当たり前と思っているよ



〈留学生に添ってくれる頼もしいパネラー〉

うな事を細かく教え、信頼を勝ち得た体験を披露し、「日々忙しい留学生にはメール交流は圧迫感を伴う。フェースブックなどを利用して、頻りに相互交流ができる手段を活用すべし」と提言。崔さんは、「初めての国で不安な留学生にと

って、日本のIメイトは心強い存在。不安を解消し日本理解を深めるために会員との直接交流をもっと活用すべき」と訴えました。昼食を一階のレストランでとったあと、会議室に戻り、「日本へ来てびっくりしたこと」というお題をもとに留学生全員が自己紹介。「牛丼が好きなのに好きと言えない日本人」、「悪くないのに御免なさいを繰り返す」など、身振りを交えての熱演に、笑いの絶えない時間となりました。



〈真剣な眼差しと熱気が後ろ姿に漲ります〉

1時すぎからは、留学生を前方に集め、会員が後方から見守る形で、西日本地区では初めての「就職支援セミナー」を行いました。7号まで発行した就活支援通信を事前に復習してもらったうえで、中村一郎理事が1時間余りにわたり、就職に臨む心構え、日本と海外の就職事情の違いなど、きめ細かく説明。留学生は真剣に聞き入っていましたが、後ろで見守っている会員からも「わかりやすく、われわれにとっても勉強になった」などの声が出ていました。2時半に交流会は終了、隣接する「人と防災未来センター」を見学したあと、有志はバスで神戸・六甲道でのカラオケ会場に向かい、交流を深めて楽しい一日は終了しました。

（理事 田仲 和彦）





Iメイト交流会から広がる交流の輪

6月18日に神戸でIメイト交流会が開催されました。久しぶりにIメイトのメン（バック・ティ・ホン・メン）ちゃんが来てくれたら嬉しいと、誘いの連絡をしました。そうしますと、フェン（レ・トゥ・フェン）さんも一緒に参加したいとのこと。田仲理事はじめ事務局にその旨を申し、快諾を頂きました。ハノイの貿易大学から横浜と東京に留学中のメンちゃんとフェンさんの2人が西日本交流会に参加したことに、西や東を越えて、皆様に暖かくおもてなしをしていただきました。



〈明石海峡大橋、パールブリッジでメンちゃんと〉

前日まで若い2人のきちんとした予定がわからず、うまく出会えたので結果オーライなのですが、はらはらとし通して、これが本当の「老婆心」だとつくづく納得しました。

早めに会場に着き、パネルディスカッションなどのプログラムが進み、お昼には初めてのチュニジア料理「クスクス」をいただきました。個性の溢れる自己紹介や有意義な就職支援セミナーなど午後のすべての行事を終えて、我が家に泊まってもらいました。古くからの友人の奥山寿子さんと留学生のお嬢さん2人が来られるとあって、夫が張りきってくれ、帰ってビックリ！！庭のアジサイが家中あちこちに飾ってありました。その夜は六甲山に夜景を見に行き、翌日は明石海峡大橋を見てから神戸水族園にも行きました。かの女たちは初めての水族園体験で、イルカショーなど楽しかったようです。

色々とお話しましたが、日本人はベトナム人よりせっかちでいつも早く早くとお急かされているように感じているようです。そう聞いていたのに、次の日はやはり先頭に立ってさっさと歩いてしまいました。根っからの日本人です。

それと、私はスマホを「ようやく使っている」というレベルなのですが、彼女たちにLINEを繋げてもらいました。また違う交流もできそうで、楽しみが増えました。

（正会員 谷村 美津子）



Iメイト学生との交流に際して思う事

待っていた連絡が清華大学交流コーディネーターの伊藤春雄さんから入り、金 秀仁（キム スイン）さんとの交流が始まったのは2014年の10月でした。

メールから受けた印象は真面目で責任感が強い物静かな学生、そして写真の印象は中学生といってもいいくらいの、ハッピーエンドの映画が好きな少女でした。



以来、週2～3回のペースでメールが続き、一時は勉強に影響が出ないかと心配したくらいでしたが、彼女からは大丈夫だしメールのやり取りが楽しいからというので、返信のタイミングに留意しながら折々の近況連絡や時に悩みを聞き、相互理解を深めました。

距離が近くなったと感じたのは日本留学と清華大学訪問旅行だと思えます。留学の件では相談に乗りつつ、情報提供等のサポートを続けました。またパートナーの学生が出来たら直接会って話したいと思っていましたので、3月のハノイ貿易大学訪問に続いて、5月の清華大学訪問にも応募する事としました。

彼女が九州大学に留学後はLINEでのやり取りも加わり、東京での交流会を始め、これまで3度の再会を果たし、あちこち案内したり美味しいものを食べたりと楽しい交流を続けています。

余談ですが、私には1男3女の4人の子供と現在7人の孫がいます。誤解を恐れずに申せば血のつながりこそないものの、彼女も含めてこれまでアジ風の交流を通して知り合った男女4人もまた子供であり孫だと思っています。彼らが必要とする時には日本でのお父さん、おじいちゃんとして、サポートをとっています。

今回改めてスインさんとの初期のメールと最近のメール、最初に送られて来た写真と今の写真を比較し、まだ1年半強しか経過していないのに日本語の進歩やその成長に驚くと共に、これからの交流がますます楽しみな今日この頃です。

（正会員 中村 一郎）



会員紹介

斎藤 利治さん

アジ風の将来像を明らかにして、次世代へ繋いで行こう

日本商工会議所(日商)に入所(1970年)して20年ほど経った頃、インドネシア・ジャカルタへの転勤の機会が巡って来た。息子達の学校の問題もあり、海外赴任には消極的だった家族を説得、妻と高校1年生の長男、中学2年生の次男を伴ってのジャカルタ行きに踏み切った。

インドネシアでの生活は、日本とは何もかもが違った。4年の間には、さまざまな出来事に遭遇したが、最も印象に残ったことのひとつは「ジャム・カレット(時間はゴムのように伸び縮みするもの)」という、日本人には理解しがたい時間に対する感覚で、特に気の短い自分にとっては耐え難いことの連続だったと述懐する。日本人にとっては、約束した時間の遅れの許容範囲はせいぜい±15分程度だろう。しかし、インドネシア人のそれは数時間に及ぶこともあった。

1997年からの4年間は北京で過ごした。中国での仕事、生活は大変だろうと皆から言われた。しかし、個人として付き合う中国人は皆とても包容力と魅力に満ちていた。そして、インドネシアや



中国に限らず現地の文化や伝統、国民性を理解するためには、日本のモノサシを持ち込んではいけないということが一番の教訓だったと語る。

〈学生会員・ギラン君(インドネシア人)と〉 2008年に現役を終えて新たなチャレンジを求めていた2013年、日経新聞に掲載された上事務局長(当時)のアジ風の記事を読んで、これだと直感した。すぐに正会員になり、今、二人の清華大学生とIメイト交流を続けている。

インドネシアは日本語の学習者数が世界で2番目に多い国だが、アジ風の新しい提携校作りに協力したいとの思いから、昨年、上理事長代行(当時)に同行して、バンドンのバジャジャラン大学を訪問した。そして、今年から新たに始まる予定のIメイト交流に備えて、最近、420時間の日本語教師養成講座の受講も始めたという。教師認定を貰って更にアジ風の活動に積極的に参画したいと、キラキラ目を輝かせた。

（インタビュアー：園田 成和）



寄稿頂いた林孝男さんの相手のゴックさんが昨年日本に留学が決まった時のメールです。佐藤賢三さんの相手のタオさんは、昨年Iメイト交流を開始した当初のメールと比べると、熊本地震を氣遣うメールでは日本語力が向上しているのが分かり、Iメイト交流の成果が顕著で大変嬉しい限りです。

(ハノイ貿易大学Iメイト交流コーディネーター 児玉 久美子)



林 孝男さんとグエン・ティ・クイン・ゴックさんのメール

ゴックさん→林さん 2015年8月14日



〈西日本地区Iメイト交流の翌日、平安神宮にて〉

お久しぶりですね！ Facebookに載せた写真を見ました。いいですね。

報告したいことがあります。今年の3月にMextという日本政府の奨学金を受けたのを知っていますね。結果が出てきました。偶然に合格できました。神戸大学に入学します。10月の1日に神戸到着することになりました。

Mextのフォームを書くとき、林さんに迷惑をかけたけど、林さんは熱心に私のミスを直してくれました。本当に感謝しました。都合

がよければ、日本で、会わせてもらえませんか？

林さん→ゴックさん 2015年8月15日

ゴックさん。それはおめでとう！！ 良かったですね。神戸大学は先輩のThu Thuyさんが2013年から昨年まで留学していました。今はハノイに帰っていますが、今年の9月頃に又、神戸大学の大学院に来たいと言っていました。私は東京近郊の川崎市に住んでいるので、なかなか神戸に行く機会がありません。私が京都、大阪、神戸に行くときは是非会いましょうね。あなたがアジ風の交流会で東京に来ることもありますのでそのときは案内しますね。では会える日を楽しみにしています。何か困ることがあれば言ってくださいね！

ゴックさん→林さん 2015年8月17日

返事くれて本当に嬉しかったです。優先なところはもちろん東京のDisneylandです。私が東京へ行ったら、会いましょう。楽しみにしています。

林さん→ゴックさん 2015年8月20日

大学が落ち着いたら、東京にきてください。案内しますね！ 留学したら友達もたくさんできますね！ その中で親しい友だちと一緒に旅行出来ると思います。日本にいる間に色々な所を見て回ることは大きな楽しみの一つですね。まずは留学の準備をしっかりして下さい。

佐藤 賢三さんとブイ・ミン・タオさんのメール

佐藤さん→タオさん 2015年11月1日



〈『経済の教科書』が読めるほどになりました〉

タオさん、大学生活や日常生活についてメールください。日常使っている会話を記録し、その中から日本語を選びメールしてください。その文章を添削しましょう。日本語の不明な点や疑問や質問があればメールください。12月の出張時に貿易大経済4年のBummieさんに会うので、一緒にお会いしましょう。楽しみにしています。

タオさん→佐藤さん 2015年11月1日

私の日本語勉強感心することがもっていただき、ほんとにありがとうございます。でも、ちょっと分かりませんが、日常使っている会話を記録し、その中から日本語を選びメールしてください。その文章を添削しましょう。は佐藤さんは私の間違っている言葉が直す という意味ですか？

Bummieさんは誰ですか。ぜひ会いたいです。どのくらいベトナムで出張しますか。

タオさん→佐藤さん 2016年5月25日

お元気ですか？ 熊本県の地震についてニュースでよく読みました。大変だったと思います。私の教師が地震があった場所にいて私たちと伝えました。地震の時、先生はとても怖いでしたが、皆さんは誰でも慌てないから、落ち着けるようになりました。それで安全でした。日本には災害がたくさんあるでも、復興するのはいつも早いです。やっぱりそれは日本人の気力のおかげです。

佐藤さん→タオさん 2016年5月26日

ご心配いただきありがとうございます。日本は地震国で大きな地震が度々あるので、訓練等も含めて対応手順はできていると思いますが、それにしても震度7はやはり大きく被害も甚大です。新幹線、高速道路も分断され、復旧には時間がかかると思います。日本は火山の上に位置し、しかも活断層がいたる処にありますので避けて通れません。

タオさん、身体に気を付けて、勉強に励んで下さい。

*最初の頃の佐藤さんのメールはふりがな付きでした

新理事の紹介 — 武田 高さん



今年会社役員を退かれた正会員で関西在住の武田さんが、7月1日付の臨時理事会で新たに理事に選任されました。西日本支部長の田仲和彦さんと共に関西地区のまとめ役として、さらにアジ風全体の運営にも関わっていただける人材として大いに期待しています。ご本人のコメントはホームページのスタッフ欄をご覧ください。

<http://www.npo-asia.org/info/staff>

今後の主な行事予定

*詳細はHP・メールでお知らせします。

2016年9月11日(日) 11:00 ~

アジ風総会 (於: 東京NHK青山荘)

2016年11月上旬

秋のIメイト交流会(関東地区) (場所は未定)

2016年11月下旬

秋のIメイト交流会(西日本地区) (場所は未定)

2017年1月28日(土) または29日(日)

新春交流会 (場所は未定)

● ● ● 編集後記 ● ● ●

事務局サポーターのメディアモニターの小田晋作さん、森郁子さん、小林俊介さんがその任を終えられると聞いた。メディアということはアジ風のHP、別冊Iメイト便り、アジ風新聞等がそのモニターの対象となったと認識している。アジ風新聞に関していえば、先号51号に関して頂いたコメントが最後のものとなった。お三方には毎号丹念に紙面をご覧いただき、的確なご指摘を数多く頂いたことにまずは心からのお礼を申し上げたい。

原稿執筆をはじめ、作業に携わる我々も仲間・・・お三方には文字では表せないお氣遣いを頂いたことは想像に難くない。非力ではあるが、今後も頂いたお言葉を反芻しながら、金科玉条として作業に従事したいと願っている。

(正会員 坂巻 延子)